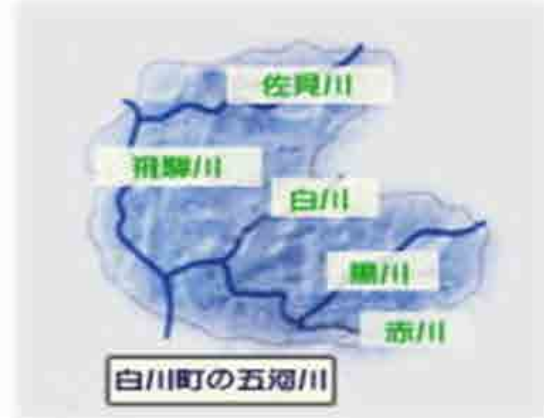


白川町の概要



面積：237.89km² 人口：9,675人（平成24年11月1日現在）

地勢：海拔150m～1,223m

森林面積：20,836ha（森林率 88%）

河川：佐見川、白川、黒川、赤川が飛騨川に注ぐ

耕地面積：764ha（田 474ha、畑 290ha）

総農家数：1,283戸（自給的農家数 685戸、販売農家数 598戸）

農地は中山間地域特有の急傾斜地に点在

販売農家1戸当たりの水田面積は約30aと零細

「農業」を維持するための努力（今まで取り組んできたこと）

平成18年6月営農組合長会議資料

課 題	主 な 解 決 策
棚田の農作業は重労働	土地区画整備事業(機械化農業)
農耕牛馬の激減	あらゆる作業の機械化(採算度外視の購入)
農業所得での家計維持困難	出稼ぎ、チャンスがあればサラリーマンに (子どもは高学歴の後、就職は当然)
農作業への従事時間減少	省力化、苗の購入、化学肥料、さらに大型機械化 (全てお金が必要となる)
お米の大量余剰	水田転作の奨励、食管制度の廃止(自主流通米) → 米生産量の割当(稲作付面積の自主的縮小)

白川町の集落営農組織設立の経緯と現況

農業従事者の高齢化や後継者不在による農地の荒廃が深刻化



白川町では、平成17年頃から「個の農業から集団の農業へ」という方針のもと、集落営農組織の育成を図ってきたことにより、白川町内各地区に将来的に法人化を視野に入れた集落営農組織が設立された。

その後、各地区集落営農組織の連携強化、水稻・大豆の生産コストの削減等による水田農業の生産性向上を通じた地域の農地の保全を図ることを目的とし、2008年に町内の集落営農組織がまとまって自発的に

「白川町集落営農組合連絡協議会」を設立

協議会は、

- ・会員相互の連携と情報交換
- ・栽培技術の研鑽
- ・共同利用機械設備の導入 等



会員組織間の連絡調整機能を発揮することで、各会員の農業生産活動に対して総合的な支援を行っている。

白川町の集落営農組織の概要

地区	組織名	設立年月	協議会 加入時期	法人化等 (年月)	構成員数 (人)	経営面積 (㎡)	水稻 (㎡)	大豆 (㎡)	その他 (㎡)
白川	(農)中川営農組合	平成19年4月	平成20年10月	法人 (平成21年2月)	35	92,367	62,665	25,533	4,169
佐見	久室営農組合	平成19年5月	平成20年10月	特定農業団体	46	121,775	86,665	33,373	1,737
佐見	大寺営農組合	平成19年3月	平成20年10月	特定農業団体	39	111,352	83,687	27,665	—
佐見	有吉営農組合	平成20年3月	平成20年10月		82	173,842	131,573	42,269	—
蘇原	三川営農組合	平成19年2月	平成20年10月		79	147,764	102,417	42,988	2,359
黒川	(農)鱒淵営農組合	平成21年2月	平成21年4月	法人 (平成23年4月)	47	113,249	87,526	25,723	—
蘇原	鹿折営農組合	平成22年5月	—		15	33,716	18,947	—	14,769
佐見	小野水田組合	平成22年5月	平成23年4月		27	63,734	44,812	18,922	—
白川北	宇津尾水田営農組合	平成22年9月	平成23年4月		25	52,341	37,024	13,497	1,820
黒川	東黒川営農組合	平成23年6月	平成24年4月		36	98,367	69,686	28,681	—
合計					431	1,008,507	725,002	258,651	24,854

10組織のうち9組織が「白川町集落営農組合連絡協議会」に加入

都市と農村の交流

集落営農組織と農園付きコテージ

白川町では、都市と農村の交流の架け橋・地域活性化の起爆剤として、平成18年度から「農園付きコテージ」の整備を進めてきた。町は、町内の3つの集落営農組合にコテージの管理運営を委託している。

＜集落営農組合への委託業務の内容＞

- (1) 建物周辺を除く敷地内の環境整備に関する業務
- (2) 農業指導に関する業務
- (3) 入居者との交流に関する業務

入居されている方々は、白川町の豊かな自然の中で、「田舎のお付き合い」をしながら都会との二地域居住を楽しんでいる。営農組合を中心とした地元住民との交流も盛んに行われ、組合員から農業のアドバイスを受れたり、地域の行事に参加したりしている。



農園付きコテージ外観



農園付きコテージ遠景



トウモロコシ収穫交流会の様子

町内産大豆を利用した6次産業化の推進

(株)佐見とうふ豆の力

町内の集落営農組合が生産した大豆はJAを通じた販売では安価で精算が遅いため、加工販売することとなり、町により大豆加工施設「佐見とうふ豆の力」を建設し、平成21年8月より製造販売を始めた。施設は、地域の女性農業グループに管理運営を委託し、町内産大豆を原材料として利用した豆腐、厚揚げ、油揚げ、揚げ豆等を加工販売している。その後、経営の拡大に伴い、平成22年4月には管理主体であった女性農業グループを母体として「株式会社 佐見とうふ豆の力」を設立し、経営の更なる拡大・安定化を目指している。最近では湯葉が商品化され、今後の売り上げが期待されている。



味噌女(みそめ)会

町内営農組合で生産された大豆を加工販売するため、平成15年に「味噌工房 味郷」を建設した。施設の管理運営は町内の主婦らが集まって設立した「味噌女会」に委託している。味噌のほか、醤油や醤油麹の加工も手がけている。また、平成24年3月に味噌加工施設の隣に「漬物工房 白川の味」を増築し、山ごぼうの味噌漬けなどの漬物加工にも取り組んでいる。



第6回 全国水源の里シンポジウム



第3回全国水源の里フォトコンテスト 特選 「山かいの田植」
渡邊恒雄(岐阜県白川町) 撮影場所: 岐阜県白川町

上流は下流を思い
下流は上流に感謝する

「日本の宝 水源の里」

～日本の元氣は水源の里から～

シンポジウム

11月2日(金)
13:00～17:10

交流会

11月2日(金)
17:30～

現地視察

11月3日(土)
9:00～14:00

平成24年 **11月2日(金)・3日(土)**

【会場】 白川町町民会館(岐阜県加茂郡白川町)

■主催 第6回全国水源の里シンポジウム実行委員会・財団法人自治総合センター

■協賛 全国水源の里連絡協議会